

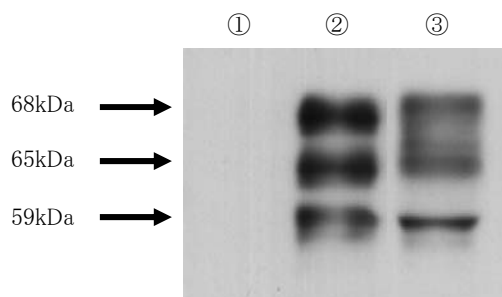
## 抗 ヒト タウ リン酸化認識 [416 番目セリン] ポリクローナル抗体

アルツハイマー病 (AD) 脳の主な病理学的特徴の一つである神経原線維変化は、神経細胞の細胞体に paired helical filaments (PHF) が蓄積したものです。この PHF の構成成分は過剰にリン酸化されたタウであることがわかっています。タウは微小管付随蛋白質の一種で微小管の形成に必要ですが、過剰にリン酸化されると微小管形成障害を起こし、神経細胞死の原因になると考えられています。

このタウをリン酸化する酵素に、Ca<sup>2+</sup>/カルモデュリン依存性プロテインキナーゼ II (CaM キナーゼ II) があります。特に、タウの 416 番目のセリンを強くリン酸化することが明らかとなってきました。CaM キナーゼ II は通常、神経細胞のシナプス部に豊富に存在しますが、AD 脳では細胞体に多量に蓄積することが報告されています。

本抗体は、416 番目のセリンがリン酸化されたヒト タウ ペプチドを抗原として作製しました。AD 発症へのタウや CaM キナーゼ II の関与を研究する上で有用であると期待されます。

容量	25µg (100µL/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	-20℃以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4℃で保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	ヒト タウ のリン酸化ペプチド[416 番目セリン]を免疫して得られたウサギの抗血清より、リン酸化ペプチドアフィニティーカラムにて精製。非リン酸化ペプチドアフィニティーカラムにて非リン酸化部位に対する抗体を除去。
使用濃度	ウェスタンブロットティング: 0.5~2µg/mL



### ウェスタンブロットティング

#### Sample:

- ① ラット脳ホモジネート (7 µg) 脱リン酸化酵素阻害剤非存在下で調製
- ② ラット脳ホモジネート (7 µg) 脱リン酸化酵素阻害剤存在下で調製
- ③ ラット脳ホモジネート (30 µg) 脱リン酸化酵素阻害剤非存在下で調製後、CaM キナーゼ II でリン酸化

#### 提供:

熊本大学大学院 医学薬学研究部 生体機能病態学講座 細胞情報薬理学  
山本 秀幸 先生

## 抗 タウリン酸化認識 [416 番目セリン] ポリクローナル抗体

### 【参考文献】

1. Yamamoto H. et al. : J Neurochem. 1983 Oct;41(4):1119-25
2. Yamamoto H. et al. : Arch Biochem Biophys. 2002 Dec 15;408(2):255-62

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp